

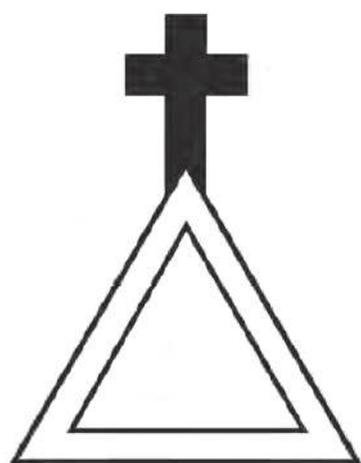
霧深き19世紀末ロンドン——

大英帝都の片隅に世界オカルト史に燦然と名を残す秘密結社が誕生した。

その名は「黄金の夜明け団」(The Hermetic Order of the Golden Dawn)。

ヘルメス学、エジプト魔術、錬金術、カバラ、占星術など、西洋秘教伝統の膨大な蓄積を体系化したその教義は、20世紀以降の魔術・スピリチュアル理論に決定的な影響を与えた。

本書は謎に包まれた同団の《歴史・人物・教義》のすべてを明らかにし、現代に生きる魔術師たちのスピリチュアル・パスの探求に資することを目的とするものである。



黄金の夜明けの象徴「十字と三角形」

「祭壇上の似姿は、不滅の光すなわち三位一体の光、闇のなかを動き、闇の世界を造り、また闇よりいでる世界を造る光の似姿たる白い三角形なり……白い三角形の上の赤い十字は光のなかに広がるかれの似姿なり」

————— ニオファイト儀式より

「十字と三角形はともに生命と光を表すものなり」

————— ジェレーター儀式より

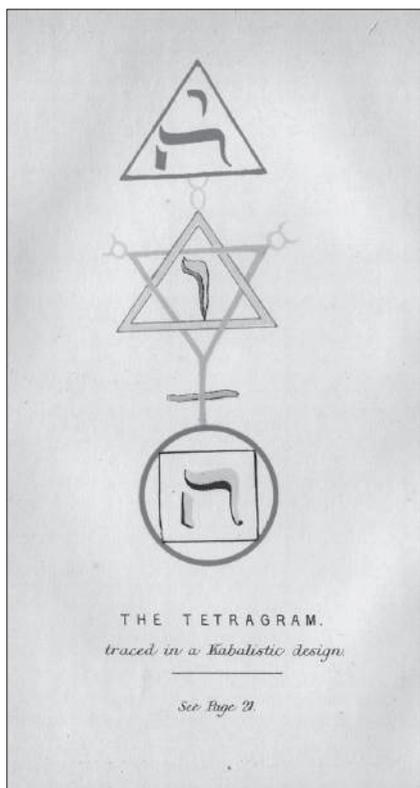
「祭壇の象徴群は、三至高者の総合としての白三角形に集中される神聖なる光の諸力と顕現を表す……ティファレットの赤十字が白三角形の上に配されるが、白三角形を支配する目的ではなく、その光を引き降ろし、外陣に顕現させるのである。あたかも自己犠牲の象徴を掲げて十字架にかけられた者が、このようにして光の聖なる三組に触れ、物質に作用を引き起こしたのと同様である」

————— Z1文書「入場者」より

「テンプルの祭壇上にも、光の上昇を表す象徴群が置かれている。六正方形からなる赤いカルヴァリ十字が、調和と均衡の象徴として白三角形の上にある——これが黄金の夜明けの紋章である。三角形と十字は至高のセフィロトの象徴にして、躍動的生命と万物の根源の象徴である。しかるに人間にあっては、本質的に精神の精髓である霊的能力の三組を構成する。ゆえに三角形は光を表す適切な紋章である。そして三角形の上という十字の位置は、聖なる霊の支配ではなく、人間の心における霊の均衡と調和を示唆している」

————— イスラエル・リガルディー著『黄金の夜明け魔術全書』

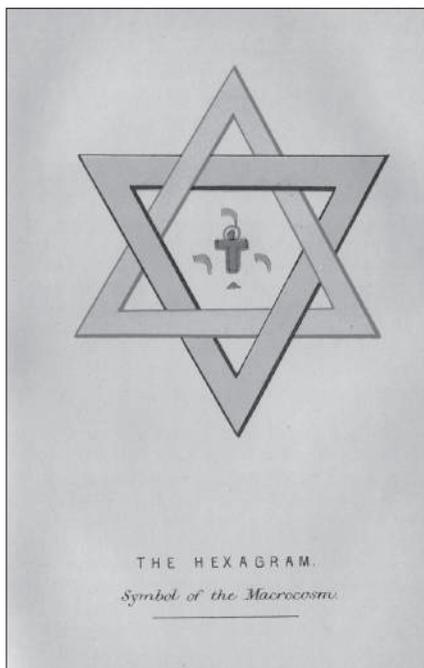
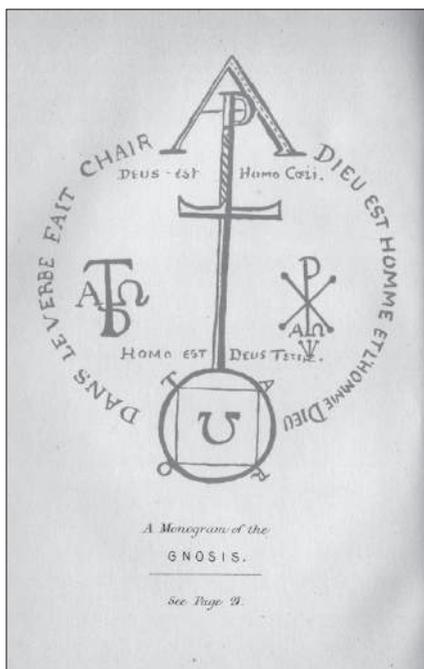
まえがきより



(左上)
ii) テトラグラム。カバラ・ヘルメス学的に描かれた高次の3区分。黄金の夜明け参入者であれば直ちにこれが意味するところを理解するだろう。

(右上)
iii) グノーシス思想をまとめたモノグラム。ギリシャ・ラテン文字により構成され、エゼキエルの輪と福音記者ヨハネの秘密が表現されている。ROTAの4文字を示すが、これはカバラ的観点からは「タロット」という言葉を表すという。

(右下)
iv) ヘキサグラム（六芒星）。大宇宙の象徴。上向きの黄色い三角と下向きの青い三角で構成される。中心にはタウ十字とヘブル文字「ヨッド」が3つ配置されている。



序章… 19

第1章 ヘルメス学と西洋秘教伝統… 27

ヘルメス学…その起源 28

ヘルメス学に影響を与えたもの 30

エジプトの宗教と魔術 31 / ギリシャの古典哲学 34 / ギリシャの密儀宗教 38 / ストア哲

学 40 / グノーシス教 42 / 新プラトン主義 44

ヘルメス学 48

要約…初期ヘルメス学に対して重要な影響を及ぼした諸派 51

ヘルメス文献 53

キリスト教とヘルメス学 55

ルネッサンス期のヘルメス・トリスメギストス 56

その後にヘルメス学に添加されたもの 58

黄金の夜明けのヘルメス原理 59

第2章 黄金の夜明けの簡略なる歴史… 63

夜明け前 66

黄金の夜明けの創立者たち 73

暗号文書 80

初期有名団員たち 83

ルビーの薔薇と金の十字架 89

問題発生 91

分派 96

第3章 魔術…その正体と仕組み… 105

魔術の定義 107

魔術と宗教 110

西洋魔術の古代起源 111

中世の魔術 114

ルネッサンスの魔術 115

魔術はどのように働くのか 118

魔術…なぞの技術 128

高等魔術…テウルギア 129

霊的存在との作業 131

黄金の夜明けの魔術 133

第4章 黄金の夜明けシステムの構造… 137

位階と司官 138

大いに誉むべき首領たち 144

テンプル・チーフ 146

インベレーター¹⁴⁶／プレモンストレーター¹⁴⁷／カンセラリウス¹⁴⁷

黄金の夜明け団外陣の司官たち 148

ハイエロファント¹⁴⁸／ハイエールス¹⁴⁹／ヘゲモン¹⁴⁹／ケリクス¹⁵⁰／ストリステス¹⁵⁰／

ダドウコス¹⁵¹／フィラクス¹⁵¹

儀式劇としての秘儀参入 152

秘儀参入の心理学 155

三段階 159

外陣位階…第一段階 160

ニオファイト位階 163 / ジェレーター位階 165 / セオリカス位階 168 / プラクテイカス位階 170

/ フィロソファース位階 174

予備門…第二段階 179

内陣…第三段階 182

第三団 188

第5章 黄金の夜明けの儀式… 193

カバラ十字 (Q C) 195

小五芒星追儼儀式 (L B R P) 196

魔術的所作 198

投射の合図 198 / 沈黙の合図 199

小五芒星召喚儀式 (L I R P) 200

中央の柱の実践 201

柱の確立 201 / 周回その一…体側 202 / 周回その二…前後 202 / 周回その三…光のシャワー 202

／周回その四…螺旋上昇（オプション） 203

儀式場と魔術道具 203

儀式の準備 204

黄金の夜明け儀式の基本ステップ 205

1) 儀式の開始宣言 206 / 2) 追儼儀式 206 / 3) 最初の浄化と聖別 207 / 4) 周行（光の

フェイドイン） 208 / 5) 宇宙の主を称える礼拝 208 / 6) 召喚儀式 209

三角形の召喚儀式 209

7) 至高者の召喚 210 / 8) 主要作業 212 / 9) 儀式場の最終浄化と聖別 212 / 10) 逆周行

（光のフェイドアウト） 213 / 11) 宇宙の主の礼拝 213 / 12) 退去許可 213 / 13) 追儼儀式 214

／14) 閉式宣言 214

四元素の神秘の食事 214

祈禱と召喚 215

エジプト式召喚 215 / プター・タネンヴィイへの讃歌 216 / アモン・ラー・ハルマキスの礼

拝 217 / ヘルメス系召喚 218

第6章 黄金の夜明けの教義…その内容… 223

カバラ 224

歴史的視点 226 / カバラの原理 228 / 黄金の夜明けのカバラ教義 235

占星術 237

歴史的視座 237 / 黄金の夜明けの占星術 241

占術 244

歴史的視座 245 / 占術の目的 246 / ジオマンシー 247 / タロット 250 / 黄金の夜明けのタロット

ト 254 / 他の占術形式 256

錬金術 257

歴史的視座 258 / 錬金術の原理 260 / 黄金の夜明けにおける錬金術 266

スクライミングとアストラル作業 267

歴史的視座 268 / スクライミングの原理 269 / 黄金の夜明けのアストラル作業 270

エノク魔術 273

エノクの伝説 273 / ジョン・ディーのエノキアン・システム 275 / 黄金の夜明けのエノク

魔術 279

第7章 黄金の夜明けの魔術師の作業… 291

参入の目的 292

魔術グループの血統という問題 294

自己参入 297

混合伝統グループ 299

黄金の夜明け体系の安全装置 300

エゴの問題 304

魔術修行 306

高潔 307 / 識別 309 / 選択、責任、および自己犠牲 309 / 奉仕 311 / 忍耐と辛抱 313

真の参入者 314

訳者解説 320

付録Ⅰ 黄金の夜明け年表 326

付録Ⅱ 団員魔法名一覧 332

付録Ⅲ 用語集 335

参考文献 365

索引 i

序章

1888年、カバラ主義者、薔薇十字団員、フリーメイソンに神智学協会会員といった面々が集って魔術結社を創立しました。これが黄金の夜明け団 (The Hermetic Order of the Golden Dawn) です。この結社ほど西洋儀式魔術にインパクトを与えた組織はかつてなかったと断言してもよいでしょう。アメリカでもヨーロッパでも、黄金の夜明け団の教義を借用していない魔術結社を見つけるのは困難です。この魔術結社はお金があったわけでもありませんし、大人数を集めてもいません。それでも黄金の夜明け団のカリキュラムのほとんどすべてが現代の西洋魔術や秘教思想に浸透し、吸収されてしまいました。無数の魔術集団や魔女サークル、はてはニューエイジグループに至るまで、五芒星儀式や中央の柱といった黄金の夜明け系のスタンダードを事実上採用しているくらいです。

いろいろな書いてしまいました。右の文章には少し解説が必要でしょう。1888年に創立された黄金の夜明け団は、創立者たちの呼び方に従えば「エソテリック黄金の夜明け」団であり、団員たちの間では「外陣黄金の夜明け団」と呼ばれていました。この団体の存在を初めて公に言及した記述では「黄金の夜明けヘルメス学徒」です。1902年3月20日に提出された「再建規則」原案では「黄金の夜明けヘルメス協会」となっています。ですが、だいたいのところ、黄金の夜明け団とあっさり呼ぶのが普通です。イスラエル・リガルディーが『生命の樹』と『黄金の夜明け魔術全書』の両書を発表して以降、「黄金の夜明け団」という名称が一般的に用いられています。

黄金の夜明けは宗教として創造されたものではありませんが、宗教的イメージと霊的コンセプトが作業現場にあつては重要な役割を果たします。創立者たちは黄金の夜明けを男女が集うヘルメス結社、人類の哲学的霊的心靈的進化に貢献する魔術師とオカルティストの友愛組織にしようと意図していました。またこの組織の目指すところは秘教知識を授ける学校にして保存庫でもありました。学徒はここでオカルト学の基本原理を学習し、またさまざまな西洋哲学と実践魔術の要素を研究したのち、実際の魔術作業に乗り出すという

算段です。

この学校の生徒たちが求めるものは昂揚した霊的経験であり、内的進化であり、一連の参入儀式を通して得られる啓発でした。位階が上がればさらなる魔術と哲学の研究が始まります。参入者は研究と瞑想をみっちり積んで次なる位階への昇進を目指します。ヘブル文字を学習し、各文字に照応する配属物（数字、色彩、惑星、神格、宝石、占星術記号、錬金術原理など）を記憶します。強い動機を持った生徒が固い決意とともに辛抱強く学習したのち、団が教える魔術技法の実践者がようやく誕生したといえるでしょう。

黄金の夜明けは、ロンドンの検視官にして著名なフリーメイソンでもあったウィリアム・ウイン・ウエストコット博士の創造物でした。この人がたまたま手に入れた文書があり、それには一連の疑似フリーメイソン儀式の概略が暗号で記されていました。ウエストコットはそれをもとに男女が参入できる秘教団体を構想しました。他に二人のフリーメイソン系薔薇十字団員の助けを借りて文書の儀式を翻訳し、1888年2月、ロンドンにてイシス・ウラニア・テンブルNo.3が開幕。かくして黄金の夜明けが誕生したという次第です。

黄金の夜明け団がもつとも活発に活動したのは1888年から1903年までです。この期間、ウエストン・スパーク・メア、ブラッドフォード、エジンバラ、さらにパリに団のテンブルが設けられました。参入者は合計でほぼ350人、その3分の1は女性です。350人中、外陣位階を終えて内陣組織「ルビーの薔薇と黄金の十字」の団員になれた者はおよそ3分の1でした。内陣の参入者になってようやく定期的に魔術作業が行われるようになります。そして内陣の下部位階ジェレーター・アダプタス・マイナーよりも上に進んだ人はさらに一握りだったのです（この見積もりには「暁の星」や「アルファ・オメガ」といった後期派生組織の人員は入っていません。これらの組織は元祖黄金の夜明け団が活動停止した1903年以降に生まれたもので、位階昇進に必要な条件が異なるのです。第三の分派「独立改定儀礼」はすべての魔術作業をカリキュラムから除外して純粋な神秘主義友愛組織となっています）。

元祖黄金の夜明け団が3派に分裂してからまるまる1世紀が経過した現在、いまほど黄金の夜明け団に対する関心が高まっている時代もないでしょう。これは魔術というタブー視された題材から秘密のヴェイルと迷信の霧を取り除こうと決意したイスラエル・リガルディーの尽力に帰すること大です。魔術といえは原始的な学問もどきにすぎないという悪評が主流であった時代において、魔術は精神の訓育にして現代心理学の一部門たりえるとし、汚名返上に努めようというのがリガルディーの願いでした。後世に多大なる影響を与えた書『黄金の夜明け魔術全書』および他の著作はこの点でも役に立ちました。あらゆる階層のヘルメス学徒が団の教義と霊的訓練にアクセス可能となったからです。以来、無数の志望者がこの知識を利用してきました。今日では、魔術団体に所属しなくてもだれでも黄金の夜明け流の魔術師になれます。わたしたちが黄金の夜明けに「団」をつけずに黄金の夜明け「システム」とか「伝統」と記述することがあるのもこのためです。

「ヴィクトリア朝の教義が現在でも人を引きつけるのはどんな価値があるからなのか？」という疑問が湧くかもしれません。なぜ黄金の夜明けの魔術システムが新世代の霊的探究者たちにも称賛され、ときに模倣されたり借用されたりしているのでしょうか。

黄金の夜明けシステムはその大部分がオリジナルではありません。構成要素の多くが過去1000年間の秘教文献のなかに散見されます。しかし黄金の夜明け団の創立者たちは実践魔術と霊的成長のための論理的な一貫体系を総合する天才だったのです。長年にわたる宗教的迫害のためにあちこちに分散していた西洋秘教伝統の断片を収集してつなぎあわせ、ちゃんと使えるシステムを創りあげました。それはバランスのとれた構成であり、原理をしっかりと説明し、知識面においても深いものでした。単にパーツを集めた足し算ではなく、むしろ掛け算といってよかったです。そしてその体系を動かすための男女平等の友愛会があります。これらの団としての集合的達成は、各メンバーの人間の短所を計算に入れても大きくプラスとみなされるも

のでした。

黄金の夜明けシステムを真摯に追求した人々の多くが、約束された目標を達成し、このシステムの有効性を確認したという事実は揺らぎません。さらにいえば、黄金の夜明けシステムは前世紀の遺物でもありません。とんでもない話です。ここに包括された古代知識は不変にして不朽です。いまの利己主義と物欲の時代にあつて、霊的叡智と個人的成長などは時代遅れと思われるかもしれませんが、決してそうではないのです。他の知識学派と同様、黄金の夜明けの教えもまた成長し、進化し、その時代の学徒のニーズに対応してきました。考古学者や研究者、心理学者や21世紀の魔術師たちによって新たな情報が次々に発見される一方、システムの基本原理と精神が有する路線からは外れないのです。

黄金の夜明けシステムは活気あふれる生きた伝統であり、これからも多くの実践者の魔術と霊的生活を豊かにしていくでしょう。

すでに黄金の夜明けに親しんでいた読者の方々には、右に書いたようなことはほとんど驚くにはあたらなはずで、近々、黄金の夜明けに関する書物が何冊も発表されています。その歴史、儀式、作業や教義がだれにでも手に入る状況です。とはいうものの、黄金の夜明けのことをほとんど、あるいはまったく知らない人が大多数だというのも事実なのです。さまざまな流派が黄金の夜明けに関する文献や研究を蓄積してきたことを考えれば、新たな霊的修行法を求める人々が黄金の夜明けに偏見を持っているという事態もまた驚愕ものです。最近では黄金の夜明けを名乗って金儲けをしようとする人々や、インターネット上で不正確な情報をまき散らす人々のおかげで事態はいよいよ悪化しています。そして一分一秒、時は金なりというこの世界、人々は霊的ファストフードを求めているともいえます。手っ取り早く、包装済みの、簡単に手に入るものが欲しいのです。

結果として、黄金の夜明け流の魔術師に必要とされる作法も訓練も理解していない人々が、およそ間違った動機で参入を求めている場合が多いといえます。黄金の夜明けこそ最強の魔術システムだと耳にしただけで、それ以外のことはまったく知らない人もいます。「もつとパワーを得られるかも」「有力者を味方につけて人々に影響力を及ぼしたい」「嫌いな隣人に呪いをかけたい」「宝くじに当たりたい」といった動機の人々もいます。なかには「アントン・ラヴェイの『悪魔のバイブル』の付録にあつた儀式を行ったので、そろそろ黄金の夜明けに参入する時期がきた」という奇怪な結論に至つたやつかいな人もいました！ 残念ながら、これが西洋秘教伝統とりわけ黄金の夜明けシステムを取り巻く誤解や勘違いの実態です。魔術界を構成する人員の大多数がいまだ黄金の夜明けの実体も教義もまったく知らないのです。さらにいえば、黄金の夜明けの魔術師に必要な原理も水準も精神もまったく理解していません。

本書はこの問題への対処を試みます。黄金の夜明けを扱う書物はいろいろありますが、初心者にはやさしい表現と簡単な用語が必要だということを考慮に入れていろいろ書物はほとんどありません。リガルデーの『黄金の夜明け魔術全書』などはその分厚さだけで初心者を追いつらうに十分です。また純粹に歴史的視点から記された書物もあれば、団の魔術実践のみに主眼を置く書物もあります。本書を記すにあたり、わたしは歴史的視点、魔術的視点の両者から黄金の夜明けの基本をストレートに紹介しようと思います。

黄金の夜明けの位階昇進にはさまざまな研究と儀式作業の完遂が必要です。その様子はしばしば「魔術の博士号取得」に等しいとされてきました。となれば、黄金の夜明けシステムの複雑さをやさしい言葉で初心者に説明して、最終的に重さ20 kg超の大冊を書かずに済むにはどうすればよいのでしょうか。この作業を引き受けるにあたり、わたしたちは以下の要件を考慮に入れることにしました。

黄金の夜明け魔術システムに貴重な時間とエネルギーを捧げるか否か、それは黄金の夜明けに関する必要情報を得てから決定すべきです。この情報は簡潔かつ正確でなければなりません。ゆえにわたしたちは以下

の情報を本文中に記します。

1) ヘルメス学あるいは西洋秘教伝統として知られるものの歴史的ルーツと原理の紹介。これは黄金の夜明け団を理解するうえで必須です。

2) 黄金の夜明けの簡潔かつ正確な歴史、さらに著名メンバーのざっとした人物紹介。元祖黄金の夜明け団は起伏に富む興味深い歴史を有しています。真の天才を発揮したこともあれば、赤面ものの恥をさらしたこともあります。このところ、黄金の夜明けの系統図に新たな空白を生み出そうとの意図のもと、派手な英雄崇拜と歴史修正が遠慮会釈なくまかりとおっています。そういう時代であればこそわたしたちは団の創立者たちの個人的欠点を糊塗しようとは思いません。霊的なものを学ぶ者として、わたしたちは偉大な先達からすべてを学ばねばなりません。そしてかれらの過ちからも学ばねばならないのです。

3) 魔術の原理と法則の紹介。黄金の夜明けシステムは現代西洋世界の主流魔術として知られています。ゆえに学徒は開始にあたり魔術とはなにか、どう働くかを明確に理解しておく必要があります。また黄金の夜明けの教義で強調されている特定の高等魔術の理解も必須です。

4) 黄金の夜明けシステムと位階構造の精査。位階構造の解説、さらにテンプル内の儀式を遂行する際の司官たちの簡潔な描写。黄金の夜明け位階儀式が伝えようとしている照応論と効果の簡潔な解説。

5) 基本的な儀式作業。初心者が黄金の夜明け魔術システムに親しむための儀式と訓練のセレクション。黄金の夜明け儀式に含まれる基本ステップの解説も入れて、初心者が簡単な黄金の夜明けスタイルの儀式を創作実行できるようにします。

6) 黄金の夜明けの理論と実践を構成する要素の概観。カバラ、占星術、占術、霊的錬金術、霊視、アストラル作業、エノク魔術。

7) 秘儀参入の心理学。黄金の夜明け参入プロセスが有する霊的、錬金術的、心理学的効果。黄金の夜明けシステムに内包される基本原理と精神。システムの背後にある哲学。

8) 付録に以下のものを入れます。黄金の夜明け歴史年表。オリジナルメンバーの魔法名一覧。用語集。参考文献一覧。索引。

本書は黄金の夜明けの全体像を把握してよりよく理解したいという初心者のために記されました。霊的な道程を歩むにあたり、健全な選択をするための理解といてもよいでしょう。本書を読み終えて、黄金の夜明けシステムに魅力を感じる、あるいはもつと知りたいたいと思われたなら、このテーマを扱う別の書物をお求めください。わたしたちの著書『黄金の夜明け伝統への自己参入』(*Self-Initiation into the Golden Dawn Tradition*)にあるコースもよい出発点となるはずです。

黄金の夜明けシステム全体は複雑な代物です。だからといって、簡単なことを知りたいだけの初心者が圧倒される必要はないといえるでしょう。「ヘルメス学ってなに?」「魔術はどうやって作用するの?」「この魔術システムは他のシステムとどう違うの?」「参入過程でなにが起きるの?」「黄金の夜明け魔術システムは自分に合う霊的筋なの?」

真剣に学ばれる人には、本書はこういった疑問への回答をいくつか提供できると思っております。

第2章 黄金の夜明けの簡略なる歴史

黄金の夜明けシステムの知識を深めようと思えば、黄金の夜明け団の波瀾万丈の歴史を正確に理解する必要があります。黄金の夜明けに関する誤情報は山ほどあります。この体系の研究が魔術の学位取得に相当すると考えるのであれば、団の関係者と団関係の事件の概略をざっと知っておくことは極めて重要なのです。

黄金の夜明けの歴史は山あり谷ありです。やるに値する活動を一生懸命やった結果ですから、成功と失敗がたくさんあるのは当然でしょう。団の豊かな歴史に貢献した個々人の人間的欠点を糊塗する必要もありません。事実は事実として受け入れるしかないでしょう。もちろん団の人々を神棚にまつて、無謬のグルとして拝む必要ありません。そういう人たちではないからです。黄金の夜明けの創立者たちを過剰なまでに評価するのはかえって失礼ですし、わたしたちにもならぬ益のないことです。かれらの失敗のみならず成功からも学ばねばなりません。団の儀式にいわく「善のみが全能にして、真理のみが勝利を収めん¹⁾」。魔術師として、また霊的探究者としてのわたしたちは、ありのままの真理を恐れる必要はないのです。

黄金の夜明けの創立者たちと初期団員たちの人生と時代を研究すれば、かれらの人間性や志、霊的探究、魔術的革新、そして創造性がわかります。黄金の夜明け研究の価値はそこにあるのです。黄金の夜明けシステムを構築した人々は神の如き存在ではありませんでした。才能と知性と創造性にあふれた人々が力を合わせてユニークな魔術教義と参入儀式を打ち立てたのです。その価値は時間の経過とともに認められ、その影響力は西洋秘教伝統を学んだ人ならばだれでも気づかざるをえないものです。

創立メンバーの一部に多少の人格的瑕疵^{かし}が認められるものの、黄金の夜明けが達成した事物による受益者は多数にのびります。それはこの体系を借用する他流派の数の多さからも証明されています。黄金の夜明けが創造した教義と儀式はいまや多数の秘教組織のスタンダードとなっているのです。それというのも教義そのものが正当にして有効だったからです。そして黄金の夜明け伝統が初恋の相手だった人々にとっては、その価値は疑いようのないものです。黄金の夜明け流の魔術師たるもの、団の闇鍋のような歴史を受け入れる

ことができれば、自己中心思想や英雄崇拜といった罫に陥ることもないでしょうし、血統をめぐるような喧嘩もなくなるでしょう。秘教団体や宗教団体が抱え込む天罰ともいうべきカルト的人格管理や操作も回避できるはずです。歴史を学べば団にとって一番大事なものの、すなわち霊的成長、光の探究、そして大いなる作業に専念できるようになるでしょう。

黄金の夜明けはその受胎時から多人数の組織になることを意図していませんでした。秘密結社でもある黄金の夜明け団は、その教義や儀式はもとより団員の素性に至るまで、あらゆる面を非参入者には秘密にしておく算段だったのです。簡単にいうと、団の目的は少数の選ばれた志願者に西洋秘教伝統の知識を授け、テウルギア系の魔術訓練課程を提供し、霊的成長と啓発に必要な道具を与えることにありました。この点では黄金の夜明け団は唯一無比の存在ではありません——いまもむかしも同様の目標を掲げる他の団体はありません。後期の集団たとえばポール・フォスター・ケースの「聖堂の建設者」(BOTA)と比較すれば、元祖黄金の夜明け団の団員数は少数です。少数ながら、西洋オカルティズムと魔術のほぼあらゆる面にこれほど影響を及ぼした集団もいないでしょう。とはいえイスラエル・リガルディーの『黄金の夜明け魔術全書』(The Golden Dawn)の公刊によって多数の読者が同団の儀式とカリキュラムを知るといふ状況が生じたならば、ここまでのインパクトはなかったはずはです。

さらに黄金の夜明け団の運営系文書、布告、内規、著名団員が書いた団関連の書簡といったものも刊行されています。また傑出した黄金の夜明け関連の歴史家たち、たとえばエリック・ハウ(『黄金の夜明けの魔術師たち』(The Magicians of the Golden Dawn))やR・A・ギルバート(『黄金の夜明け、魔術師たちの黄昏』(The Golden Dawn: Twilight of the Magicians))『黄金の夜明け必携』(The Golden Dawn Companion)、『黄金の夜明けスクラップブック』(The Golden Dawn Scrapbook))といった面々が、団の創立者たちの人となりや思想、動機や葛藤や志に光を当てています。ハウやギルバートは余人にはなかなかアクセスできない

黄金の夜明け系「個人コレクション」を利用する点で比類なき存在です。かれらのおかげでわたしたちは西洋魔術結社の筆頭である黄金の夜明け団を創った人々をよりよく理解できるようになりました。

夜明け前

カトリック教会の政治構造と知的防波堤は、中世にあつては無敵を誇りましたが、ルネッサンスと宗教改革がもたらす打撃をはねのけることは不可能でした。啓蒙の時代すなわち17世紀後半から18世紀にかけての知的運動は、前世紀の宗教的狂気に対する反応といえました。そのルーツはルネッサンスの人文主義であり、ギリシャやローマ時代の文献と価値観に対する学問的興味を推進した結果です。簡単にいうと啓蒙思想とは理性の祝祭です。人間が宇宙を把握して自らの存在を前進させるための能力、それが理性であるとしたのです。知識、自由、幸福は、合理的あるいは思考的人間が目指すべきゴールとされました。

英国やフランスでは、ついに宗教そのものが理性的に点検される対象となりました。結果として生まれたのが理神論です。たいした教義もない合理的かつ組織だつていない宗教のようなものといましようか、神はあらゆる合理的なものを通じて顕現するという考えに基づいていました。その主たるものは、「宇宙の建築者」として知覚される唯一の神の存在です。この神は世界に関心がなく、人の生を支配することもなく、自然現象になんら影響力を及ぼさないのです。

啓蒙思想は予期せぬかたちで宗教に影響を与えました。たとえばキリスト教原理主義の主流である聖書至上主義は、俗にいう「理性の時代」の産物です。「歴史的事実としての聖書」という発想が「超自然的密儀の書としての聖書」という観点に打ち勝つたため、聖書の象徴的寓意的叡智が無視されるようになったのです。⁴

皮肉なことに、18世紀の極端な合理主義はフリーメイソンリーや神秘主義、秘密結社に対する新たな関心という反撃を食らいました。古代密儀宗教を実行可能な形で再現しようという試みも数多く出現しています。この種のものとしては、1754年に設立されたマルティネス・ド・パスカリの「選ばれしコーエン」やルイ・クロード・サンマルタン（1743-1803）の「マルタン団」といったカバラ系団体があります。またアレックスandro・カリオストロ伯爵（1743-1795）が創ったエジプト・フリーメイソンリーのような疑似メイソンリー団体もその例でしょう。

最終的に啓蒙思想は自らの冷淡な行き過ぎによって自縄自縛状態に陥ります。ただし人類全体の進歩という楽観主義は生き残りました。「盲目的理性」に対する反動は18世紀後半にロマン主義というかたちで到来しました。この文化運動の特徴は個人の感情と想像力の強調であり、自然に対する新たな関心がありました。主観的なもの、個人的なもの、自発的なもの、幻視的なもの、超絶的なものをよしとしたのです。そして魔術、古代宗教、そして形而上の事物もふたたび興味の対象となったのでした。

エマニュエル・スウェーデンボルグ（1688-1772）のような幻視家にとっては、まさに機が熟したといえる時代でした。このスウェーデンの科学者は哲学者にしてキリスト教神秘主義者であり、高次元にアクセスして霊や天使と意思疎通できると主張していました。また死者の霊とも接触可能であり、その対象は聖人や王侯、教皇や聖書の登場人物に及びます。スウェーデンボルグは大変な時間と労力を費やして聖書を解釈し、また霊的領域で見聞きしたことを書き残しています。

新たな治療法といった分野も試験されていました。ドイツの医師アントン・メスメル（1734-1815）は生体磁気論を展開しています。精妙な遍在的「流体」があらゆる肉体に存在すると仮定する説です。この不可視の流体は磁気法則によって活動するため、磁性体を用いて操作することで治療にも使えるとされ

ました。メスマルの治療体系はメスマリズムと称されており、現代の催眠術の先駆者といえます。

1800年代中頃になると、ヨーロッパではオカルティズム全般とりわけヘルメス伝統に対する関心が大いに高まっていました。この関心は英国でも広まりましたが、特にフランスにおいて顕著です。1855年前後になると、フランスのオカルト復興は順調に進展中だったといえるでしょう。この運動の先頭に立ったのが元カトリック神父にして精力的な作家アルフォンス・ルイ・コンスタン、筆名エリファス・レヴィ（1810-1875）といった人々でした。レヴィは隠秘学に造詣の深い熱心なカバラ研究者でした。1854年にかねが発表した『高等魔術の教理と祭儀』は西洋魔術伝統の礎石となります。レヴィはタロットの22枚の大アルカナとヘブル語アルファベットの22文字の関連性を最初に指摘した人物でもあります⁵。このタロットカバラ説のちに黄金の夜明け教義の重要な部分となります⁶。レヴィが記したカバラ論、護符の製造法、アストラル・ライトという概念は、黄金の夜明け団の創立者たちによって支持されています。

19世紀のオカルト復興に重要な役割を果たした人物としては、フレデリック・ホックリー（1808-1885）の名前もあがります。この人は心靈術者にしてフリーメイソン、薔薇十字団員とさまざまな側面を有していて、水晶球と魔法鏡を用いて霊界交信や霊視を行い、その模様を60余年にわたって記録しています。この「薔薇十字系霊視者」はカバラや錬金術、魔術に関する未発表の文書を大量に残していきました。几帳面につづられた霊視記録だけでも日記30冊以上に及びます。ホックリーの英国薔薇十字協会の友人たちのうち、とりわけオカルト趣味を有する人々がこの作業記録に接していたのは疑いのないところです。

19世紀は英国が世界の最果てまで探検していた時期ですから、なにかしら発見される時代といつてよいでしょう。ケルトの古代伝統や極東の神秘主義に対する好奇心が大いに高まったのもこの時期です。また古代エジプトへの関心も広がっており、この方面の火付け役はかなりの割合で大英博物館古代エジプトおよびア

ツシリア部門管理者サー・E・A・ウォリス・バッジでした。1883年、バッジは大英博物館に勤務するようになり、博物館のために無数の貴重な文書や粘土板やパピルスを集めました。そのなかに驚くほど保存状態のよい『死者の書』⁸があったのです。

当時のオカルト研究はがちがちの理論派ばかりでした。しかし霊的信仰という点では明らかに気分的変化がありました。多数の人々が伝統宗教の現状に不満を抱いており、なにか新しいもの、刺激的なものを渴望していました。この渴きを満たすべく心霊術運動が進展したといえます。

心霊術が代替信仰として確立したのは、1840年代後半のアメリカが舞台でした。1848年、メソジスト信者の農家のフォックス三姉妹（マーガレッタ、リー、ケイト）が創始したものとされています。この一家は夜な夜な発生する不可解なコツコツ音やバンバン音に悩まされていました。最終的に姉妹の一人が単純な信号を用いて騒がしい幽霊と交信を開始し、幽霊が不慮の死を遂げていたことを知りました。その後、フォックス三姉妹は死者との交信能力を一般公開するようになります。

心霊術そのものは、やはり死者との交信を主張していたエマニユエル・スウェーデンボルグの影響を受けていたでしょう。またアントン・メスメルやその追従者の作品群も影響を与えていたと推測されます。メスメルは催眠トランス状態を発見しており、それは心霊術の霊媒のトランス状態とほぼ同種のものといっています。

心霊術の焦点は死者との交信にあります。交信相手の故人はまず生前の正確な個人情報提示して本人確認を行うよう求められます。そして生者に情報を与えるべく霊媒を通じて発話します。このときにある種の物理現象たとえばテーブルを叩く音が発生したりします。霊媒の空中浮遊、サイコメトリー⁹、霊媒の周囲にある物の移動、霊による筆記、さらには死者の物質化なども発生することがあります。

世に出るや心霊術は大変なセンセーションを巻き起こし、多数の信奉者を獲得しました。霊との直接的かつ個人的な接触体験を提供したからです。1860年頃になると、心霊術は英国にもすっかり根付いていました。1875年には心霊術運動に参加した人々は数百万人へのぼっています¹⁰。伝統的な教会のおとなしい課業にくらべると、心霊術はダイナミックであり、高揚感をもたらす存在だったからです。とはいえ、心霊術にも数多くの限界がありました。死者の霊と抜け殻しかいない霊界の最下層としか接触できないと思われるのです（魔術師たちが心霊術を評していわく「死んだからといって賢くなるわけではない」）。心霊術は知的面で洗練されておらず、背景となる伝統も存在しません。また霊媒があまりに暗示にかかりやすいという危険性があり、トランス状態における意思不在も不安材料と見なされました。そしていかさま霊媒の数の多さは目に余る代物だったのです。

1860年代から70年代にかけて、フリーメイソンリーに対する関心も高まっていました。いうまでもないでしょうが、あのソロモン王の神殿建築の際に創立されたとされる男性会員のみで世界的友愛組織です¹¹。フリーメイソンリーが教えるものは基本的な道徳であり、象徴を通して原理的発達を遂げることです。その入会には宇宙の神聖建築者としての神への信仰が求められます。さまざまな位階への参入には複雑な象徴儀式体系が用いられます。メイソンリーの秘密の合言葉、ノック、握手法などは黄金の夜明け団の位階儀式構造に直接の影響を有しているといつてよいでしょう¹²。メイソンになりたいという男性が大量に流入したため、1800年代後半に多数の新ロッジが結成されました。

1875年、心霊術関係者、カバラ研究者、フリーメイソン、薔薇十字団員といった面々がニューヨークにて神智学協会なる組織を創立しました。トップに君臨するのはヘレナ・ペトロヴァ・ブラヴァツキー夫人とヘンリー・オルコット大佐です。ロシア生まれのブラヴァツキー（略してHPB）は派手でやりたい放題

の魅力的人物だったといわれています。この人が19世紀オカルト復興にあってもっとも影響力を持つ人物の一人でした。

神智学 Theosophy は「神の智慧」の意味です。神智学協会の目的は人類の世界的同胞組織の確立にあります。そのコンセプトは「原子から恒星、人から天使に至るまで、万物は一つの神聖なる源泉を有する」という「自然的事実」に根差しています。¹³ 神智学協会では秘密教義の存在を強調していました。それは高次元を住処とする高位達人たちによってはるか昔から保管されてきたものだったといえます。ブラヴァツキーはその教えを肉の体を持たない霊的教師たちから直接授かったと主張していました。

アメリカでも英国でも、多数の教養人が神智学を歓迎しました。ヴィクトリア朝の大衆向け宗教にある風通しの悪さとは対照的な、生命力に満ちた刺激的な代用物が登場したと思われたからです。またそれは霊的かつ神秘的な宇宙観の破壊に忙しい物質科学にとってかわる存在と目されました。神智学は新たな霊性を求める人々を知的に満足させるものだったのです。神智学協会員は死んだ親戚に助言を求めることはしません。啓発された高次元の霊的存在すなわち「マスター」たちが相談相手なのです。また神智学は古代秘密伝統を表現するという魅力的な主張も行っていました。その目標は古代人の秘教知識を現代人にもたらし、比較宗教と自然法則と人類の霊的能力の研究を促進することにあるといえます。さらに会員間の友愛をサポートしつつ、神智学協会は「あらゆる時代の人類に共通する秘密の智慧の教え」という発想を世間に広めていったのです。

神智学協会創立者のなかに、東洋神秘伝統を代表する個人がいないという点は注目に値します。協会の開幕当初、ブラヴァツキーが内的に接触していた相手いわゆる「秘密の首領」は、ソロモンとゾロアスターの作業を引き継ぐエジプト系組織に属する肉体を持たないマスターたちとされていました。言い換えるなら、

神智学協会は西洋系の秘教結社として設立されたということです。ブラヴァツキーの西洋系マスターたちはセラピス、ベイ、ポリドラス、イシュレヌス、ジョン・キングといった名前で呼ばれていました。

しかし一年とたたずしてブラヴァツキーとオルコットは仏教に改宗しています。それから神智学協会は東洋指向にかじを切るのです。ブラヴァツキーは西洋系マスターたちをお払い箱にし、3人の東洋系マスターたちを採用しました。それがクト・フーミ、モリヤ、そしてディ瓦尔・クルルのお三方です。HPBとオルコットが仏教徒にならず、また神智学協会の焦点も変更しなかったとすれば、黄金の夜明けがこの世に生まれなかった可能性は大であったといえるでしょう。ともあれこれ以降、神智学が霊的叡智を東洋に求めたため、西洋秘教伝統を強調する組織の必要性は残ったままとなりました。

黄金の夜明けの誕生に影響力を及ぼした人物としては、アンナ・キングスフォードがあげられます。霊的パートナーであるエドワード・メイトランドとともに、キングスフォード夫人は秘教キリスト教という観念を復活させました。キングスフォードもメイトランドも神秘家であり、頻繁に霊的ヴィジョンを得ていたといわれています。二人が行った作業はキリスト教汎神論と称されています。聖書を解釈するにあたり、秘教的象徴やカバラ、エジプトやギリシャやローマの神話を用いるのです。その教理はある種の新プラトン主義やグノーシス教、そして錬金術的発想に類似していました。

1880年代初頭、キングスフォードとメイトランドは神智学協会の会員となり、1884年にはロンドン支部の代表を務めていました。しかし二人は代表の座を辞任して協会を去ることになります。協会の東洋指向と自分たちの西洋信仰が決して折り合うことがないと悟ったからです。エリファス・レヴィのカバラ思想のほろがずつと二人の好みに合っていたのです。

1885年、キングスフォードとメイトランドは西洋秘教哲学を推進する目的で「ヘルメス協会」を結成

しました。この協会にはサミュエル・リデル・マサースやウィリアム・ウイン・ウェストコット博士といった人材が集まり、会員のための講義を行っていました。キングスフォードは霊的探究にあつては男女が共同してことにあたるべしという信念の持ち主でした（この点は神智学協会も同様です）。キングスフォードの男女共同作業論がマサースとウェストコットの心に深く刻まれたのは疑いのないところでしょう。R・A・ギルバートによれば、これら著名なヘルメス協会会員2名は――

……西洋の道を歩みつつも、母胎組織である神智学協会の長所も保持していた。フリーメイソンとしてのかれらは、一部の教義に関して秘密の誓いを立てさせ、「協会員が相互確認に用いる合図や合言葉を決して他に漏らさぬこと」を約束させることの利点を認識していた。薔薇十字団員としてのかれらは、超自然的な隠れたマスターたちの利用価値もわかっていた。マハトマであろうが秘密の首領であろうが、そういった存在は――實在架空を問わず――団の指導者にとってはまことに使い勝手がよいのである。一般人としてのかれらは、神智学よりもずっと壮麗ななにかを開始する機が熟したと悟ったのである。黄金の夜明けはまさに生まれようとしていた。¹⁶

黄金の夜明けの創立者たち

1888年、3人のカバラ研究者にしてフリーメイソンにして薔薇十字団員が「黄金の夜明け秘教団」を創立し、神智学協会が放棄した作業の継続を試みました。黄金の夜明けの創立者たちの意図は、団をして西洋秘教伝統の守護者となし、その知識を保全する一方、密儀参入へ召命された人々の予備教育を行うというものでした。

黄金の夜明けの創立者筆頭はウィリアム・ウイン・ウェストコット博士でした。ロンドンの検視官にして

オカルト趣味を有する医師、さらにマスター・メイソンにして英国薔薇十字協会（SRIA）書記という人物です。またウエストコットは正統メイソンの枠外で栄える雑多なメイソン系組織にも興味を抱いていました。結果として、当時の英国で流行していた秘教団体のほぼすべてに積極的に参加していたといっています。とはいえこういった団体組織の大多数は理論面を追求していて、実践作業には無関係でした。ウエストコットはもともと別のもの——西洋秘教知識を研究調査するだけでなく、その知識を実践的な魔術として用いるグループを欲していたのです。

いろいろな話を総合すると、ウエストコットは温和で友好的な人物だったようです。影響力の及ぶ領域内では、十分に敬愛されていたと思われます。秘教関連サークルにあつてはカバラと錬金術とヘルメス哲学の専門家として広く認められていました。ヘルメス学方面でも医学分野でも印象に残る著作を發表しています。この疲れを知らないオカルティストは有名な秘教作品を次々に翻訳していきました。代表的なところではカバラ文献『形成の書』（*Sepher Yetzirah*, 1887）やレヴィのタロット論『至聖所の魔術儀式』（*The Magical Ritual of the Sanctum Regnum*, 1896）があります。またウエストコットは一連のヘルメス学文献やグノーシス文献を編集し、『ヘルメス文書集成』¹⁵（*Collectanea Hermetica*）として1冊ずつ刊行していきました。英国薔薇十字協会で発表したエッセイも別個に印刷していきました。「数、その秘められた力と神秘の効能」、「カバラ研究序説」、「薔薇十字団、その過去と現在、国内と海外事情」などが代表的なところです。

1888年、ウエストコットはサミュエル・リデル・マサースとウィリアム・ロバート・ウッドマン博士の助力を得て黄金の夜明け秘教団を創立しました。しかし黄金の夜明けは完全にウエストコットの子供といつてよいでしょう。エリック・ハウによれば「ウエストコットは創立者3名は同等であると企図していたが、初期の黄金の夜明け団を運営していたのはかれ一人だった。それはかれの趣味であり、子供であり、大部分

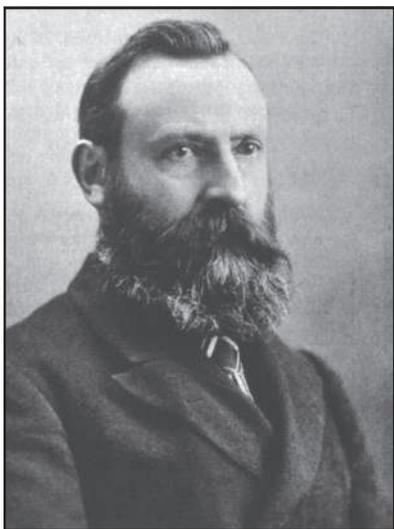
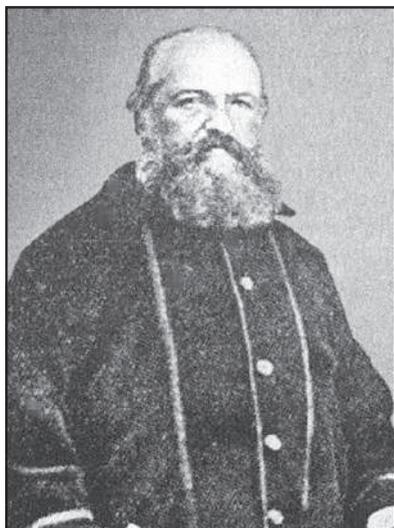


図5：上段左からエリファス・レヴィ、ブラヴァッキー。下段左からアンナ・キングスフォード、ウィリアム・ウィン・ウェストコット博士。

かれが作り出したものだったのである」⁽¹⁷⁾。

そもそも暗号文書を発見したのはウエストコットであってマサースではない。暗号文書を利用してなにが作れるのか、それを見抜いたのもウエストコットであり、その夢想を黄金の夜明け団というかたちで実現したのもウエストコットである。さらに適切な「使徒継承」を設定して団にそれなりの権威を持たせたのもウエストコットであった。ウエストコットが残したノートから判断しても、その秘教的知識はマサースのそれと勝るとも劣らないのである。当時はこういった疑問を抱く人はいなかったであろうが、昨今、マサースを持ちあげる勢力がウエストコットを貶めようと微妙なかたちで後者の能力に関してなにやらほめかしているようである。見るべきところを見れば、マサース自身がオカルト分野においてウエストコットを同等と見なしていた点は疑いようがないのである。⁽¹⁸⁾

黄金の夜明け創立におけるウエストコットの協力者の一人はウィリアム・ロバート・ウッドマン博士でした。当時はもう引退していた医師にして園芸家です。ウッドマンは著名なフリーメイソンで、英国薔薇十字協会の指導的会員にして協会の機関誌『ザ・ロジクルツシャン』の共同編集者でもありました。英国薔薇十字協会の創立者ロバート・ウェントワース・リトルが1878年4月に死去したとき、ウッドマンが協会の代表（至高術士）となり、『ザ・ロジクルツシャン』も引き継いだのです。ウッドマンの運営の下で英国薔薇十字協会はロンドンから英国各地へと広がります。オーストラリアやアメリカへも勢力範囲を拡大し、やがて世界を代表する薔薇十字組織として急速に受け入れられるようになりました。ウッドマンはまた協会の研究活動にカバラ重視を持ち込んだ人とされています。

1887年、ウッドマンはマサースとともに黄金の夜明け団の指導者の一人に就任するようウェストコックから打診されました。ウッドマンは優れたカバラ研究者でしたから、団のカバラ研究の発展において指導的役割を果たしたと思われます。しかしかれは団が十分に発展する以前の1891年に死去してしまいました。

黄金の夜明け団創立者3名中、真の魔術師といえるのはサミュエル・リデル・「マグレガー」⁽¹⁹⁾・マサースでした。この人も高位のフリーメイソンであり、英国薔薇十字協会の高等委員会のメンバーでもあります。協会の機関誌に「ヘブル文字のなかの神格」、「薔薇十字の象徴」、「薔薇十字の長老たちとその十二宮エンブレム」といった記事も掲載しています。ウェストコック、ウッドマン、マサースの創立者3名はこれまでもいろいろ言われてきましたが、ことマサースに関してはとんでもない悪役とされるか、あるいは神のように崇拜されるかのいずれかでした。どちらの見解も的外れといえるでしょう。マサースは悪党でもなければ超人でもなかったからです。とはいっても、かれが黄金の夜明けの歴史を彩る稀有の人物の一人である点は間違いないです。魔術的天才と大いなる創造性をあわせ持つ人物にありがちな多くの特徴と傾向を如実に示した人だったといっておきましょう。

元プロボクサーでもあるマサースは、なかなか魅力的な人物だったといわれています。スレンダーな長身で、フェンシングで受けた傷が目立っていたそうです。直接会った人はみな魅了されていて、ほめるにせよけなすにせよ、マサースの人物に関してあれこれ書き残しています。

マサースの知識の広さに関しては、それを評価するかは別にして、友人も敵陣営も認めるにやぶさかではなかった。A・E・ウェイトの言によればマサースは「ブラックストーンお笑い六法全書のオカルト版」であり、大英博物館で朝から晩まで毎日オカルト研究を続けていたという。なにせ「批判的精神をまったく持ち合わせてい

ない」ため、知識を丸呑みするばかりで選別することをまったくしなかったとのこと。W・B・イエイツも似たような判断を下している。いわくマサースは「知識は素晴らしいが学識に欠ける。想像力は豊かだが趣味という点で首尾一貫していなかった」という。これに反論するようにJ・W・ブロディー・イネスはマサースの「さまざまな分野の脇道小道に関する素晴らしい知識」に言及し、次のように語っている。「かれの学識に関してはわたしごときの出番はない。わたしなどはるかに及ばないからだ」。そしてプロディー・イネス自身、一目置かれる学者なのである。²⁰

マサースの公刊作品としてはマルセイユ版タロットを扱う『タロット、そのオカルトの意味と占法、遊び方』（1888）があります。また奥義書の翻訳として『術士アブラメリンの神聖魔術の書』、『ソロモン王の鍵』、『アルマデル奥義書』なども有名です。さらにマサースはクノール・フォン・ローゼンロスのラテン語本『カバラ・デヌダータ』を英訳し、『ヴェイルを脱いだカバラ』として発表しています。

マサースは才能ある儀式作家でもありました。貧困のうちに暮らしていたという事実にもかかわらず、かれは西洋秘教伝統における最高教義をいくつか生み出したのです。そしてマサースはときにオカルト的暴君としてふるまうことができる人でもありました。実践的魔術師としてかれに比肩しうる人はほとんどいません。黄金の夜明け団の創立三首領のなかで、マサースこそが内陣の首領として黄金の夜明け団を真の魔術参入結社に変貌させた人物でした。結果としてこの団体は当時のオカルト研究組織から図抜けた存在となったのです。



図6：上段左からS・L・マグレガー・マサース、W・R・ウッドマン博士。下段左からモイナ・マサース、フロレンス・ファー。

索引

[アルファベット]

YHVH.....196, 220
YHVH エロア・ヴェ・ダアス.....201
YHVH エロヒム.....201
Z2.....256, 267

[あ]

アグラ.....196
アイトン、ウィリアム・アレクサンダー
.....86
アイン・ソフ.....61, 229-230
アイン・ソフ・アウル.....139
アカシク・ライブラリー.....269
アカシク・レコード.....269
暁の星.....21, 95, 97-100, 103, 254
アキナス、トマス.....240
アグリッパ、ヘンリー・コーネリウス
.....116, 227, 243, 247, 276, 286, 301
アシュ.....209
『アスクレピウス』.....54
アストラル・ライト.....68, 119-120,
124-127, 153, 156, 269
アター.....195
アダム・カドモン.....236
アツィルト.....253, 287
アッシャー.....190, 253, 287
アダプタス・イグゼンブタス.....142, 147,
182, 187
アダプタス・マイナー.....21, 89-90, 100,
132, 142, 147, 182, 184-189, 210, 256,
279, 283-284, 298, 308
アダプタス・メジャー.....142, 146, 182, 187
アトゥム・テンブル.....90
アドナイ.....168, 196, 211, 221
アドナイ・ハ・アレッツ.....201
アナクサゴラス.....36
アナクシマン드로ス.....35
アニマ・ムンディ.....270
アニマ.....156, 167, 182
アニムス.....156, 167, 182
アヌビス.....150, 152, 164, 169
アハトゥール・テンブル.....90, 96, 103
アバノ、ピエトロ・デ.....247
アブラメリン.....78, 301
アペイロン.....35
アマウン・テンブル.....95
アメン・ラー・テンブル.....83, 91
アモン・ラー・ハルマキス.....217
アリストテレス.....113, 116, 239-240, 312
『アルス・ゲオマンティア』.....247
アル・ラジ.....258
アルコン.....43
アルファ・オメガ (AO).....21, 95-97, 99
アレッツ.....210
暗号文書.....76, 80-82, 100-101, 103, 280
暗黒時代.....56, 239
アンチモニー.....264
イアンブリコス.....30, 46-47, 52, 59, 121,
130, 134
イエイツ、ウィリアム・バトラー.....78,
84-86, 93-95, 102-103
イエヘシュア.....213, 227
イエソド.....140-143, 168-172, 175,
189-190, 201, 234, 305
イエツィラー.....269, 287

イエホヴァンヤ	213	エドムの王	154, 175-176
硫黄	181-183, 265	『エスマエリシュ』	175
イシス・ウラニア・テンプル	21, 83-84, 86, 89-91, 94-95	エノキアン・タブレット	250
イシス	34, 39, 146-147, 175, 293	エノキアン・チェス	256, 284
イブシシマス	142-143, 188	エノキアン・ピラミッド	271
イブシ・ハイヤー、ジャビル	258-259	エノク魔術	26, 86, 187, 224, 250, 269, 273, 275, 277-278, 279-283, 289
イメージの宝庫	269	エノク	252, 273-274, 277
印形(シジル)	236, 271, 277-278, 283	エピテミア	37
『隠秘哲学』	227, 243, 276	エヘイエー	196, 201
インペラトリクス	146	エマリー、フロレンス	86
インペレーター	94, 144-146	『エメラルド・タブレット』	54, 121
ヴァラハーミヒラ	243	エラステネス	41
ヴァレンタイン派グノーシス	42	選ばれしコーエン	67
ヴァレンティヌス	42	エレウシス	39, 148, 151, 171, 206, 293
ヴィーナス	196	円十字(サークルクロス)	144-145, 149
ウェイト、アーサー・エドワード	77, 85, 87, 95-96, 186, 287	エンベドクレス	36
ウェストコット、ウィリアム・ウィン	21, 73-77, 80-82, 90, 92-93, 101-103, 171, 215, 229, 254, 295, 300	大いなる作業	60-61, 65, 133, 155, 159, 161, 170, 212, 214, 266, 297-298
宇宙共感論	41	大いに眷むべき首領たち	144
宇宙的媒体	119	オーガリー	246
宇宙を映す魔法の鏡	121-122	『オカルト・レビュー』	98
ウッドフォード、A・F・A	80	オカルト復興	58, 68, 71, 100, 240, 253
ウッドマン、ウィリアム・ロバート	74, 76-77, 79-80, 89	オシリス・テンプル	83
ウリエル	197, 210	オシリス	32-33, 39, 149, 153, 164-165, 175, 293, 299, 318
英国薔薇十字協会(SRIA)	68, 74, 76-77, 81, 83, 100, 103, 106, 142, 229	オポウェト	152
易経	248	オルコット、ヘンリー	70
エゴ(自我)	134, 155-156, 162, 180, 293, 296, 300, 304-307, 310-312, 314	オルフェウス	38-39, 293
エジプト・フリーメイソンリー	67		
エツ・ハ・カウム	228		
エデンの園	169, 171-173, 176-178		

[か]

カー	33
開鍵式	256
カイビト	33
書かれざるカバラ	228
鉤十字(スワスチカ)	145, 151

影	33, 156, 167, 178, 189
数札	251, 253-254
カデュケス	28, 196, 212
カドモス	252, 274
カドラプリシティ	241
『カバラ・デスデータ』	78, 228
カバラ	20, 26, 36, 38, 57-59, 61, 67-68, 70, 72-74, 76-77, 78, 81, 87, 89, 116, 132-134, 138-140, 142, 160, 163, 165, 167, 172, 180, 184, 187, 189-190, 196, 198, 211, 220, 224-230, 234-236, 242-243, 250, 252-254, 256-257, 259-260, 269, 280, 283, 305
四界論	163, 236, 253
カバラ十字 (QC)	195-198, 200, 209-210, 215, 272
カビリ	38-39, 154, 171
ガブリエル	196, 210
神の姿	184, 271
神の姿をまとう術	187
『ガヤト・アル・ハキム』	243
カリオストロ、アレッサンドロ	67
ガリレオ	240
カルヴァリ十字	150
カルデア	112, 129, 224, 239, 243-244
『カルデア神託』	48, 114, 130, 171, 175, 315
感覚の天球	164, 166, 305
カンセラリウス	144-145, 147
カンセラリア	147
逆周行	206, 213
教理カバラ	228
ギリシャ系エジプトの魔術パピルス	54, 114
キリストの教えに先駆ける者	57-58
キリスト教汎神論	72
キリスト聖体節	185
ギルバート、R・A	65, 73, 81-82, 101-102, 316-317
キルヒャー、アタナシウス	58, 229, 231
キングスフォード、アンナ	72-73, 75, 82, 229
金星	142, 174, 243
クインテセンス (第五のエッセンス)	180, 265-266
空気の三角形	209
くじ引き	246
グノーシス	30, 37-38, 40, 42-44, 48, 50, 52-56, 59-60, 72, 74, 114, 224, 282
クハト	33
クフ	33
グランゴヌール・タロット	251
グリア、ジョン・マイケル	248, 316
クリスチャン、ポール	100, 129
クリスチャン・ローゼンクロイツ	89, 154, 184-185, 295
クリフォト	156, 167, 178, 187, 303
グリモワール	114-115
クロウリー、アレイスター	85, 87, 93-94, 97, 103, 108-109, 304
クロムレク・テンブル	96
敬礼の合図	198
ケース、ポール・フォスター	65, 87-88, 97
ケセド	140-143, 147, 196, 233-234
ケテル	140-143, 188, 196, 201-203, 230, 235, 305
ケプラー、ヨハネス	240
ゲプラー	127, 140-143, 146, 195, 196, 234
ゲマトリア	228, 236
ケム	30-31, 34, 51

ケリー、エドワード	269, 275-278, 279-282	シエム・ハ・メフォラシュ	236, 243, 286
ケリキッサ	150	ジェレーター	103, 142-143, 151, 154, 160, 165-169, 247
ケリクス	148, 150, 158, 169	ジェレーター・アダプタス・マイナー	21, 100, 283, 284, 298
ケルト十字	256, 287	塩	165, 181-183, 214-215, 265
ケルビム	167, 169	ジオマンシー	89, 163, 247-250, 271, 281, 283
ケルプ	167	志願者	65, 103, 144, 149, 150-151, 153-155, 157-158, 160-162, 164-166, 283, 292-295, 297-298, 308
顕教	58, 111	磁気	67, 120, 164, 197, 292
顕教的占星術	241	シギリム・デイ・アメス	276
賢者の石	180, 262, 264, 315	『死者の書』	69, 164
恒星占星術(サイドリアル)	242	自然魔術	57, 115
黄道	238	実践カバラ	226, 228
荒野の幕屋	153, 166-167	慈悲の(白い)柱	140, 174, 179
コートカード	251, 254, 287	シャダイ・エル・カイ	201
コクマー	140-143, 188, 232, 234	周行	130, 205, 208
個性化	157, 162, 165	十字三角	145, 146, 204, 214
コフの小径	175	獣帯	241-242
コベルニクス	240	十二宮占星術(トロピカル)	242
五芒星儀式	20, 200, 210, 283	出生占星術(ネイタル)	241
コルドヴェロ	232-233	シュプレングル、アンナ(SDA)	82
ゴン、モード	87	シュプレングル、フロイライン	82, 94, 295
コンスタン、アルフォンス・ルイ	68	首領達人	180, 182

[さ]

サイコポンプ	156	峻巖の(黒い)柱	140, 170, 174, 179
サイコメトリー	69	分点(春分、秋分)	152, 185, 242, 286
歳差(運動)	242, 286	ショウ、ジョージ・バーナード	86
再留	187	小アルカナ	243, 250, 253-254
サト・バハイ	81	召喚の小五芒星(小召喚五芒星)	200
サモトラキア	38, 154, 171, 293	小五芒星召喚儀式(LIRP)	194, 200, 209
三角形の召喚儀式	209		
サンタラ、ヒューゴ・デ	247		
サンダルフォン	167		
サンマルタン、ルイ・クロード	67		
ジュブラン、アントワン・クール・ド	252		

小五芒星追離儀式 (LBRP).....	127, 194, 196-198, 207
諸次元への上昇.....	271
シンクレティズム.....	228
シンクロシティ.....	128
『神聖ピマンデル』.....	54, 218
真善美.....	61
神智学.....	71-73, 229
神智学協会.....	20, 70-73, 83-84, 101
シンの小径.....	170-172
審判の間.....	153, 164
神秘の食事.....	214-215
新プラトン主義.....	30, 38, 44, 46, 48, 50, 52, 55, 59, 72, 114, 121, 130, 227, 240
新ピタゴラス主義.....	30, 46
心霊術.....	68-70
水銀.....	182-183, 265
水星.....	142, 174, 243
『スイダス』.....	257
スウェーデンボルグ、エマニュエル.....	67, 69
スキナー、ステイヴン.....	248
スクライヤー.....	267-268, 270, 282
スクライニング.....	133, 184, 224, 245, 267-272, 275-276, 282-284, 304
スクライニング・シンボル.....	250
ストア派 (ストア哲学).....	30, 40-41, 51
ストリストレス.....	145, 148, 150-151
『スプレンドラー・ソリス』.....	260
スマラグダム・タラセス・テンプル.....	97
西旗.....	149
聖餐.....	190, 214
聖守護天使.....	132, 156, 187, 305
聖堂の建設者 (BOTA).....	65
生命の家.....	34
生命の樹.....	20, 97-98, 130, 139-141, 144, 153, 159-160, 163, 165, 168, 170, 174, 178-179, 188, 190, 225, 228-229, 231, 234-236, 243, 253-256, 283, 299, 302, 313
西洋秘教伝統.....	22, 24-25, 59, 64-65, 72-73, 78, 106, 153, 162, 224, 244, 250, 292, 297, 312, 314
セオリカス・アダプタス・マイナー.....	90
セオリカス.....	142, 143, 150, 160, 168-169, 171
世界魂.....	38, 41, 45, 117, 119
セケム.....	33
セス派グノーシス.....	42
ゼノン.....	41
セフィラ.....	139, 142, 144, 146, 147, 163, 166, 168, 170, 172, 174, 179, 190, 230, 232, 233, 234, 255
セフィロト.....	61, 139-140, 156, 159-160, 163, 168, 179, 188, 196, 200, 226-227, 229, 230, 233-236, 253-255, 280
『セフェル・イエツィラー (形成の書)』.....	74, 226
『セフィル・ゾハール (壮麗の書)』.....	226-228, 234
『セフェル・バヒル (輝きの書)』.....	226-228
セムの司祭.....	33
占者.....	246
占術.....	26, 28, 106, 120, 133, 163, 212, 224, 241, 244-248, 250, 255-256, 284
占星術.....	21, 26, 28, 44, 53-54, 57, 89, 112, 114, 116, 163, 184, 224, 237-242, 244, 247, 250, 255-256, 258, 259, 269, 271, 275, 280, 286
即時占星術 (ホラリー).....	241

測天官	33
ソクラテス	36, 113
ゾシモス	258
ソフィア	43, 44
ソルヴェ・エト・コアグラ	180
ゾロアスター	30, 44, 57, 71, 111, 112
ソロモン	70, 294, 296
『ソロモンの小さな鍵』	112

[た]

ダアス	201
大アルカナ	68, 250-251, 255
第一段階	159-160, 179
退去許可	206, 213
対合	232
台座	146, 148-149
第三段階	159, 182
大天使	110, 114, 116, 127, 131-132, 196-197, 200, 210, 215, 236, 274, 282
第二段階	159, 179, 189
ダイモン	36
タウの小径	169
タウマツルギア	112
タットワ	271
ダドゥコス	148, 151
ダドゥシェ	151
タブラ・サンクタ	276, 283
護符	34, 54, 68, 106, 112, 116, 133, 154, 187, 228, 236, 242, 250, 276, 279, 283
タロット	68, 74, 78, 86-87, 89, 100, 163, 169, 171, 175-176, 178, 181, 212, 228, 243, 247, 250-256, 271-272, 280, 283, 287, 289
地下納骨所	90, 184-186, 189, 272, 318
逐字カバラ	228
地の三角形	210

中央の柱	20, 140, 170, 179, 185, 198, 200-202, 212, 220, 235-236, 298
中庸の柱	140
超絶	31, 40, 43-44, 52, 60, 67, 130-131, 139, 180, 225
沈黙の合図	198-199, 208, 213
ツァディの小径	175
追讎	127, 194, 196, 204, 206, 208, 213
追讎の小五芒星 (小追讎五芒星)	197
追讎儀式	194, 205-206, 208, 214
月	116, 126, 142, 169, 175, 238-239, 243, 265
デ・メディチ、コジモ	57
ディー、ジョン	268-269, 275-282
低次の自己	46, 311
ティファレット	140-143, 147, 179, 187, 196, 201, 203, 234, 305
テウクロス	244
テウルギア (高等魔術)	30, 46, 59, 65, 113, 121, 129-134, 153-154, 159, 165, 214, 227, 282, 296
テウルギスト (儀式魔術師)	129-133, 153, 172, 315
テーマ・テンプル	90
セオス (神)	45, 52
デカン	238-239, 241, 243, 254, 256, 286
テトラクティス	35, 37
テトラグラマトン	227, 256
テトラグラム	248-250, 271
デ・ヘプタルチア・ミスティカ	277, 283
デミウルゴス	37, 43-44, 53
デモクリトス	258
テレズマ	119, 283
天界のタロット	256
天才	158, 181, 186, 211, 293, 306

天使……………30, 43, 67, 71, 106, 110, 114-116,
125, 131-133, 139, 163, 169, 196, 215,
224-225, 236, 269, 272-274, 276-277,
278, 279, 282, 284, 289, 302, 309

天使の鍵……………278, 279

天動説……………240

テンプル・チーフ……………146

東旗……………149

統合……………46, 155-157, 159, 161-162, 168,
187, 302

統合象徴……………172

トート……………28, 29, 53, 147, 164, 274

トート・ヘルメス・テンプル……………90, 329

『トートの書』……………252

独立改定儀礼……………21, 95

トリスモシン、サロモン……………260

トリテミウス……………80

トリプリシティ……………239, 241, 243

[な]

内光協会……………87

内臓占い……………245

ナグ・ハマディ……………54

ナルヴェイジ……………277

ニオファイト・アダプタス・マイナー
……………187

ニオファイト……………80, 84, 100, 103, 142-144,
152, 154-155, 159-166, 187, 198, 235,
266, 283, 298, 308

『逃げるアタランタ』……………260-261

入場者の合図……………198

ネイス……………151

ネシャマー……………189-190

ネツァク……………140-143, 174-176, 234

ネテル……………31-32

ネフシス……………146, 175

ネミス……………146, 148

ノウス……………36, 41, 45, 52

[は]

バー……………33

ハイエルース……………148-149, 158, 181

ハイエレミア……………149

ハイエロファンティッサ……………148

ハイエロファント……………148-149, 154, 158,
180, 305

ハイエロファント前任者……………145, 149

ハイヤー、ジャビル・イブン……………258-259

高次の自己……………46, 108, 132, 134, 159, 161,
180, 187, 229, 235, 295, 305, 306, 311

ハウ、エリック……………65, 74

パウサニアス……………268

パスカリ、マルティネス・ド……………67

八人の会……………81

バッジ、E・A・ウォリス……………69, 101

パッファー……………260

バビロン……………112, 114, 238, 244, 252

バラケルスス、アウレオルス……………123, 136,
259

薔薇十字……………68, 76, 77, 80, 87, 90, 96, 102,
106, 144, 184, 188, 211, 224, 260, 269,
299, 313

薔薇十字団……………20-21, 40, 68, 70, 73-74, 82,
89, 132, 184-185, 294-295

薔薇十字三大宣言書……………184

薔薇十字思想……………58-59, 184

パロケス……………179, 181

万物照応の法則……………120-121

ヒエロファンテス……………148

『ピカトリクス』……………243

光の魔術……………212, 256, 267

秘教占星術……………241-242

秘教部	84, 101	プラクティカス	103, 142-143, 150, 160, 168, 170-171, 174-175, 255
『飛翔する巻物』	271	ブラックウッド、アルジャーノン	87
『ピスティス・ソフィア』	43	フラッド、ロバート	58, 247
ピタゴラス	35-36, 113	プラトン	36-38, 43-45, 52, 57, 113, 119, 130, 240
左側の柱	234	プラトン哲学	30
ビナー	140-143, 188, 232, 234	フラメル、ニコラス	259
火の三角形	207, 209	ブリアー	253, 287
ヒポスタセス	45	フリーメイソン	20-21, 68, 70, 73, 76-77, 80-83, 142, 186, 252, 317
秘められた光の協会	97	フリーメイソンリー	58, 67, 70, 83, 87, 101, 103, 106, 144, 224, 289, 294
ファー、フロレンス	79, 86, 92-95, 215, 271	ブリマ・マテリア	264
『ファーマ・フラテルニタティス』	89-90, 184	ブルワー・リットン、エドワード	80
『フィジカ』	258	ブレモンストラトリクス	147
フィチーノ、マルシリオ	57, 115-116, 131	ブレモンストレーター	144-145, 147
フィラエテス	263	ブロディー・イネス、ジョン・ウィリアム	78, 95-96
フィラキッサ	151	プロティヌス	44-46
フィラクス	148, 151	プロトス・セオス	45, 52
フィロソファス	80, 103, 142-143, 149, 159-160, 168, 172, 174-176, 178, 180-181	プロナオス	151
フェルキン、ロバート・ウィリアム	95, 97, 254	分解	161, 168, 178-179, 198, 213, 234
フォーチュン、ダイアン	85, 87, 96, 98, 109, 225-226	ヘイドン、ジョン	247
フォックス三姉妹	69	ベーコン、ロジャー	259
フォルク、ヨハン・フリードリッヒ	80	ベーの小怪	175-176, 178
プター・タネンヴィ (プター・タネン)	216, 221	ヘカ	113
プター・テンプル	90	ヘカス・ヘカス・エステ・ピペロイ!	206
プトレマイオス	240, 277, 286	ヘゲモーネ	149
プネウマ	43	ヘゲモン	148-150, 158, 181
ブラーエ、チョコ	240	ベック、ウィリアム	87, 91
ブラヴァッキー、ヘレナ・ペトロヴァ (HPB)	70-72, 75, 101	ベリッジ、エドワード	87, 122
		ベルグソン、アンリ	84
		ベルグソン、ミナ	84
		ヘルマニューピス・テンプル	81, 102

ヘルメス・メルクリウス・トリスメギストス……48-49, 53-54, 56-58, 60, 119, 121, 218, 258
 ヘルメス・ロッジ……97
 ヘルメス学……25-26, 28-30, 44, 48, 50-59, 74, 259, 275, 313, 316
 『ヘルメス選集』……54, 57, 115
 ヘルメス団体……28, 40
 ヘルメス文書(ヘルメティカ)……30, 48, 53-55, 57, 74, 101, 114-115, 240
 ヘレネス……34
 ヘロドトス……31, 61
 ペンタグラマトン……220, 227
 防護の合図……199
 ホートン、ウィリアム……86
 ホーニマン、アニー……86, 91-92, 94
 ホール・ワー……149
 ホックリー、フレデリック……68, 80, 269
 ホド……140-144, 170-172, 175, 234
 ホランド、フレデリック……81
 『ポリグラフィア』……80
 ホルス・テンプル……83
 ホルス……149, 151, 164, 175, 221
 ホロスコープ……238, 240-241, 247, 275
 ホロス(ホロス夫妻)……94-95, 295

[ま]

マアト……150, 164
 マーリン・ロッジ……97
 マイム……210
 マイヤー、ミハエル……260
 マギ……129
 マグヌス、アルベルトゥス……259
 マクロコスモス……120
 マゲイア……111
 マサース、サミュエル・リデル……73-74, 76-80, 84, 89-97, 101, 103, 184, 225, 228, 253-254, 256, 279-280, 283, 295, 300, 304
 マサース、モイナ……79, 84, 90-92, 96, 104, 254
 マジスター・テンプリ……142-143, 188
 魔術の媒体……119
 魔術効能論……120
 マッケン、アーサー……87
 マッケンジー、ケネス……81-82, 100, 102, 189
 マテシス……40
 魔法名……26, 82, 164, 212
 マルクト……140-144, 166-171, 175, 190, 195-196, 201-203, 234
 マルタン団……67
 マルタ十字……145, 147
 ミカエル……197, 210
 右側の柱……234
 ミクロコスモス……120
 ミステリア……38
 水の三角形……207, 209
 ミトラ……39
 ミトラ教……40, 42
 ミランドラ、ピコ・デラ……57, 116, 227
 ムト……151, 217
 メイガス……142-143, 188
 メイソン……70, 80-81
 メイソンリー……67, 70, 74, 101, 103
 メイトランド、エドワード……72
 メガス……111
 メスメリズム……68
 メスメル、アントン……67-69
 メソポタミア……112-113, 238
 メタトロン……167, 274

モルゲンロス.....80-81, 102
モルゲンロス・ヘルメス協会.....95

[や]

ヤハウエ.....154, 175
矢ふり.....245-246
指輪と円盤.....256
ユング、カール.....128, 155-156, 158, 172,
190, 270
ユング心理学.....167, 169
予備門.....100, 149, 155, 159, 179-183, 189,
190, 200, 266, 280, 308

[ら]

ラファエル.....196, 210
『ラムスプリングの書』.....260
ラングフォード・ガースティン、E・J
.....97
リガルディー、イスラエル.....20, 22, 24,
65, 88, 97-100, 104, 130, 136, 138, 153,
168, 187, 198, 200, 210, 220, 229, 236,
248, 283-284, 298, 304-305, 312, 318
理神論.....66
リトル、ロバート・ウェントワース.....76
リベル・ロガエス.....277
両極の法則(二元の法則).....264
リリー、ウィリアム.....240
ルアク.....189-190, 209
ルビーの薔薇と金の十字架(RRAC)
.....89-90, 140, 181, 182
霊視.....26, 68, 80, 84, 90, 94, 245, 267,
270-271, 288
霊的ヴィジョンのスクライミング.....271
霊的ヴィジョンの旅.....271

レヴィ、エリファス.....58, 61, 68, 72,
74-75, 81, 100, 108, 118-121, 123, 156,
252, 254, 269
レグルス.....242, 286
レシュの小径.....170-172
レン.....33
錬金術.....21, 26, 28, 40, 51, 54, 57-59, 68,
72, 74, 86, 89, 114, 123, 156-157, 159,
161, 163, 166, 168-170, 174, 179-181,
183-184, 187, 214, 224, 257-267, 275,
278, 288, 300, 302-305, 311, 314-315
錬金術三原理.....182, 362
錬金術三角形.....271
ロイヒリン、ヨハネス.....227
ローゼンロス、クノール・フォン.....78,
228
六芒星.....197, 210, 283
ロゴス.....37, 41, 43, 123
ロマン主義.....67
ロンドン・シークレット・コレッジ.....97

[わ]

ワーレ・ラ.....97
ワイルド、オスカー.....87
ワイルド、コンスタンス.....87

[著者]

チック・シセロ

アメリカ合衆国ニューヨーク州生まれ。ミュージシャン、ビジネスマンを経て、儀式魔術の実践家となり40年に及ぶキャリアを有する。黄金の夜明け団の魔法体系を初めて世に開示したイスラエル・リガルディーと親交があり、1977年、アメリカに同団のテンプル（支部）を創設。1980年代初頭におけるリガルディーの黄金の夜明け団復活の試みを補佐した中心人物の一人。位階はシニア・アデプト。現在は妻のサンドラ・タバサ・シセロとともにフロリダ在住。サンドラとの共著に *Self-Initiation into the Golden Dawn Tradition*, *Golden Dawn Magical Tarot Mini-Kit*, *Ritual Use of Magical Tools*（いずれも Llewellyn Worldwide Ltd）などがある。

サンドラ・タバサ・シセロ

アメリカ合衆国ウィスコンシン州生まれ。ウィスコンシン大学ミルウォーキー校学士（美術）。黄金の夜明け団シニア・アデプト。

[翻訳]

江口之隆（えぐち これたか）

1958年、福岡県生まれ。魔術研究家、翻訳家。1983年、日本初の黄金の夜明け団の歴史書『黄金の夜明け』（共著、国書刊行会）を上梓。1984～85年にかけて英国・ウォーバーグ研究所で夜明け団研究を行う。魔術関係の著訳書多数。主な著書に『黒魔術・白魔術』（長尾豊名義、学研）、『西洋魔物図鑑』（翔泳社）など、訳書にクロウリー『ムーンチャイルド』（創元推理文庫）、リガルディー編『黄金の夜明け魔術全書』上下巻をはじめとする『黄金の夜明け魔法大全』シリーズなどがある。Webサイト・Twitter アカウント『西洋魔術博物館』を主宰。魅惑的な西洋魔術の世界に関するウィットに富んだ情報発信が幅広い層の人気を呼んでいる。

[ホームページ] <http://www.elfindog.sakura.ne.jp/>

Translated from

THE ESSENTIAL GOLDEN DAWN: AN INTRODUCTION TO HIGH MAGIC

Copyright ©2003 Chic Cicero and Sandra Tabatha Cicero

Published by Llewellyn Publications

Woodbury, MN 55125 USA www.llewellyn.com

through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo



現代魔術の源流

「黄金の夜明け団」入門

第一刷 2017年12月31日

著者 チック・シセロ

サンドラ・タバサ・シセロ

訳・解説 江口之隆

発行人 石井健資

発行所 株式会社ヒカルランド

〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11 THビル6F

電話 03-6265-0852 ファックス 03-6265-0853

<http://www.hikaruland.co.jp> info@hikaruland.co.jp

振替 00180-8-496587

本文・カバー・製本

DTP 株式会社キヤップス

編集担当 児島祥子

落丁・乱丁はお取替えないしませす。無断転載・複製を禁じます。

©2017 Eguchi Koretaka Printed in Japan

ISBN978-4-86471-547-8